

平成 30 年度 第2回東御市総合教育会議 会議録

1 日 時

平成 30 年(2018 年)9月 28 日(金) 午前 10 時 29 分から 11 時 19 分まで

2 場 所

公室

3 議 題

(1)学校 ICT 整備について

(2)その他について

4 出席者

○市長 花岡利夫

○教育長 小山隆文

○委員

教育長職務代理者 下村征子

委員 小林経明

委員 小林利佳

委員 直井良一

○その他

横関教育次長、柳沢教育課長、小林学校教育係長、土屋青少年教育係長

若林学校教育係主査

会議録

横関教育次長

ただ今から平成 30 年度第2回総合教育会議を開催します。
はじめに市長、教育長からごあいさつをお願いします。

花岡市長

9月議会において懸案であった学校施設における空調設備設置について、設計予算が可決されたことをこの場にてご報告します。6月に行われた国の平成31年度事業要望調査において、市内全小中学校の空調設備設置について要望を行っており、順調に進めば、次期臨時国会での補正予算可決が予想されます。保育園については交付税にて、児童館等については合併特例交付金にて、それぞれで予算対応する予定でいます。国の動向による不確定さはありますが、来夏に設置できることを期待しているところです。

本日は学校 ICT 整備について懇談を行います。東御市の学校 ICT 環境整備が遅れていることは認識しており、これから導入していく機器が教育現場にどのように活用することができ、どんな成果を期待できるか、検討して行きたいと考えております。

小山教育長

今回のテーマは ICT 環境整備についてということで、皆さんと現状を情報共有しながら、将来を見越した教育現場を整えていきたいと願っております。

横関教育次長

それでは会議事項に入らせていただきます。
事務局より(1)学校 ICT 整備について説明します。

柳沢教育課長

現在事務局では東御市教育情報化推進計画(案)を策定中であり、この計画を基本としながら学校 ICT 環境整備を進めたいと考えています。

「資料説明」

要旨

- ・2020年学習指導要領の改訂によりプログラミング教育が開始
- ・教科指導におけるICT活用と校務における情報化推進をするため ICT 環境整備が必須
- ・教育用・校務用コンピュータの老朽化、無線LAN未整備
- ・教科指導でのICT活用に関して多くの教員の能力・知識の不足
- ・今後の教育情報化推進に向け、次期学習指導要領に対応したICT環境の整備
- ・効率的な校務の実現と教職員の負担軽減を目的とした統合型校務支援システムの導入

- ・保護者へICT教育への理解・啓発と児童生徒への情報教育の推進
- ・情報セキュリティ対策

横関教育次長

質問等ございますでしょうか。

下村委員

国から ICT 環境整備についての特別な予算措置はありますか。

柳沢教育課長

平成 28 年度から既に交付税算入されていることから、補助制度等はありません。

プログラミング教育をどのように進めるかも重要ではありますが、本市においてはまずは教育現場の ICT 環境整備が喫緊の課題です。取り急ぎ ICT 機器に慣れてもらうために、教員向けの ICT 機器整備を進めたいと考えております。

小林経明委員

教育用については現状のパソコン教室のようなパソコン機器の継続には反対です。パソコン教室を廃止し、無線 LAN を配備し、タブレットを中心に整備した方が使い勝手もよいですし、設備投資が安く済むと思います。

整備を進めるべきとされている電子黒板は、まだまだ高価な印象を受けます。タブレットで十分代用できるので優先度は下げてよいのではないのでしょうか。

全国学力検査において、図形の領域に課題がある児童生徒が多い中、タブレットは非常に有効です。早急に導入の検討をされてみてはいかがでしょうか。

いくつか提案しましたが、結局のところ ICT 機器を使いこなせる教員をどう増やしていくかが最も重要なポイントです。

花岡市長

ICT 機器の進歩は日進月歩で、電子黒板も随分と高性能で安価になってきており、学校現場に導入し易くなっていると感じますが、何を子どもたちに教えるかが大切であり、機器の選定についてもっと研究が必要と感じます。財政が厳しい折ではありますが、子どもたちが少しでも授業に興味を持ってもらえるよう、適材を適所に配備できる方法を考えていかなければなりません。

下村委員

小学校の支援クラスで使い始めたタブレットの音読アプリケーションが、読みの苦手な児童に対し、非常に効果があったと聞いています。

直井委員

私の知り合いから、匿名で市内学校へ ICT 機器 100 万円分の寄附をしたいという話を受けています。

最先端都市であるつくば市であっても、完全に使いこなしている教員はほとんどいないとのこと。理由は全ての教科で ICT 機器を取り入れるのは非常に難しいからです。少しずつでも教員が使いこなす勉強をしてもらう意味も込めて、寄附を有効に使っていただきたいと思います。

小林経明委員

電子黒板はまだまだこれから高性能になり、安価になっていくと言われていています。一方、タブレットは可動式端末として完成形の域に達しつつありますので、今後優先的に選択すべきと感じます。

花岡市長

教育的効果があつて、予算に負担がないのはタブレットというところでしょうか。

小林経明委員

台数は全児童生徒分の必要はなく、1校当り 30 台くらいあれば十分活用できると思います。無線 LAN 環境は必要になりますが、全教室に配備しなくても特定の教室に環境があればよいのではないのでしょうか。その程度であれば低予算で済むと思います。とりあえず 1 校をモデル校として整備してみてもどうでしょうか。

直井委員

負担感を感じる教員もいる一方で、使ってみたい教員もいますので、そういう教員から各学校へ波及していくと ICT に関して理解が進むのではないのでしょうか。

小山教育長

モデル校を作れば、他の学校の教員が定期的集まり、研究を進めることができます。学習効果が見えればきっと使いたいと思う教員は増えると思います。

花岡市長

読み書きの学習に困難さを持っている子どもたちにとって、タブレットは間違いなく新たな有効なツールだと思います。

横関教育次長

市内学校の内、1校のパソコン教室に無線 LAN 環境を整備して、モデルとしてはどうでしょうか。

小林学校教育係長

先ほど直井委員から申し出があった寄附については大変ありがたい話ですので、それをつかってタブレットを購入し、1か2校分の無線 LAN 環境を市で整備し、教員には学習効果をよく研究してもらいたいと考えます。

花岡市長

モデル校設置の方向で進めてください。無線環境整備については1校ずつが良いのか、全校一括がいいのか、スケールメリットをよく検討してください。

横関教育次長

無線環境整備についての予算は精査します。寄附の件も含めて、学校 ICT 整備に向けて準備を進めます。

小林経明委員

プログラミングについての進捗はどうですか。

小山教育長

教職員会の中にある情報教育部会で研究を進めていますが、今回のモデル校設置により、より具体的な検討の場ができると期待しています。

ただ、プログラミングは未知の分野であり、当市のみならず全県的に学校現場では苦勞しているようですが、文部科学省から指導要領が示されているので取り組んでいかなければなりません。

小林経明委員

プログラムを構築するコーディングは将来的には必要な技術ですが、非常に難しい課題です。

花岡市長

最近、プログラミングコンテストで小学生が入賞した話や、プログラミングを使って会社を起業する世代は 10 代が最も多いという話を耳にします。義務教育からプログラミングをするという新しい時代になってしまったなという実感を覚えます。

小山教育長

プログラミングを児童生徒に教えるのはまだまだ課題が多いと思いますが、少なくとも「自分の意図を伝えるために論理的に筋道立てて考え実行する『プログラミング的思考』』については、全教科に取り入れていく方向で考えています。

横関教育次長

それでは学校 ICT 整備について、一定の方向性が確認されましたので、予算化の準備を進めてまいります。

以上で第2回総合教育会議を閉会とさせていただきます。